

中津川市総合計画審議会

第3回産業部会要旨

平成25年10月3日(木)

午後3時00分 開 会

部会長あいさつ

田口委員の紹介

(岡山部会長) 品村委員欠席報告。

副部会長会で産業部会に關係する農業委員の田口委員に話を聞く必要があると指摘されたので、本日、招聘した。

(田口委員) あいさつ

1. 行政からの提出資料の審議

(岡山部会長) 先回の部会で、市から提出する資料をまとめて、できれば産業部会前に提供してほしいとお願いしたが、結果的に今日になった。進行が予定と変わってきたのでお願いします。本日の提出資料の内容について事務局から説明願います。

～事務局 資料説明～

(岡山部会長) この前の産業部会で、現状、行政の考える課題、課題に対する取り組み方針を行政に作ってほしいという宿題が出た。現構想の評価の問題点が、次期構想の課題に入っているかどうか目通しして、漏れがないか確認してほしい。特に現状についてこの認識でいいか、それぞれの立場で目通しして、その後課題について気付くことがないか、取り組み方針がこれでいいのか、自分たちはどう考えるのかについて議論したいと思う。

(浅井副部会長) 目を通す時のポイントを行政サイドから聞きたい。

(木村企画財務課長) 行政が考えているのは継続事業なので、取り組み方針について新たなアイデアを盛り込んでいただければと思います。定住推進は部ができて間もない、定住推進は、いくつもの部にまたがるため行政の縦割りの弱いところが出ている、そこは忌憚のない意見をいただければ。

(岡山部会長) 将来像をつくるキーワードも併せて検討していただきたい。行政から上がってきた課題をしっかり目通しすることが1点。課題解決のための方針で、行政とは違う切り口があれば大歓迎。もう1点は現状の中で気付いていない部分は、行政が得意でない部分、所属している中で、将来こんな切り口で取り組んだらどうかというのがあればお願いしたい。

(鈴木委員) 例えば中津川市が観光にいくら予算を使っているか、人件費を除いて可能なら出してほしい。

(木村企画財務課長) 24年度決算で、農林という形なら出せます。

(鈴木委員) 何らかの形で数値が見えると大体見えるのかなと思う。

(岡山部会長) すぐに出るなら出してください。

午後3時16分 休憩

午後3時45分 再開

(岡山部会長) それぞれ小委員会ごとに意見ををお願いします。

(鷹見委員) 現状・課題は書かれているとおりで、取り組み方針の中で「健全で豊かな森林づくり」に「農地に近い里山の緊急整備の推進」を入れてほしい。これは農との関係で里山が整備されれば獣害などを回避できる。

「持続的な林業・木材産業の振興」に「森林の多面的な機能を高めるために森林の保育」を入れてほしい。コスト削減で木材の安定供給ばかりやってたくさん材木が出ている。遅れている「保育と環境林の整備」が急務。

「人材育成の推進」に、「地籍調査が遅れている地域を早期に推進する」を入れる。地籍調査が進めば森林の整備が進み、担い手も働くことができる。

「林道網の整備」では「旧林道の整備・拡充」をしてほしい。「作業道の整備」もお願いしたい。

「既設林道の整備」では、「新路線の整備」を入れてほしい。

(岡山部会長) 書いたから入れるというわけではないが、意見としてあればお願いしたい。

(足立委員) 里山整備は鳥獣害の最善の策なので必要だと思う。

(岡山部会長) 里山整備と鳥獣害の関係は。

(田口委員) 里山を整備すると動物は山から里へ出てこない。

(岡山部会長) 鳥獣害被害は減るか。

(足立委員) 人間が住むところ、中間が里山、動物が棲むところで、その里山を両方が共有している。

(鷹見委員) 人間のエリアに動物は入ってこない。

(岡山部会長) 鳥獣害と関連するのはなかなか面白い切り口。今、中津川でそういう実験林はあるか。

(鷹見委員) 実験林はないが、森を明るくすればイノシシは出てこない。

(岡山部会長) 里山整備を農業と関連性を持たせながら、どこかに実験域を作る取り組みが必要かもしれない。

「持続的な林業・木材産業の振興」の部分で産直住宅の建築の推進があるが、これは旧町村で町・村をあげて推進してきた。その中で「人材育成」という部分で非常に大きな効果をもたらした。行政の役割の部分で、旧町村では若い後継者が育っている。これは他の産業には見られない。それは行政がしっかりとやるという言葉を使うことによって後継者が育つという面があると思う。行政は「リーダー的な人間をしっかりと育てていく」ということもあるような気がする。

(木村企画財務課長) 自然環境保全にも里山整備が課題として取り上げられています。

(岡山部会長) このことは、環境だけでなく林業の振興と別の分類の仕方があるような気がする。

(鷹見委員) 「景観整備」に変えてほしい。景観整備に持っていくと自然環境がよくなって

商工にもつながってくると思う。

(岡山部会長) 景観整備の立場から分析すると面白い。林業の中でキーワードになるような言葉をお願いしたい。

(鷹見委員) 「次世代を担う子供たちのために森林環境を育む」。それが奥山の整備であったり里山の整備であったり。奥山を整備することで針広混交林といって天然林と混植することにより動物もそこで暮らせるようになる。災害にも強い森づくりになっていく。

(岡山部会長) 「次世代を見据えた森林環境整備」という感じか。

(鷹見委員) そうです。

(岡山部会長) 農業振興に移ります。

(足立委員) 課題の捉え方が農産物の生産という部分でしか捉えられていない。農地は自然との兼ね合いが高いので、「農地が持っている多面的機能」を入れてほしい。課題に対する取り組みの中では、「集落営農組織の育成支援」は必要。「販売戦略の強化」はブランド力の強化。「農業の6次産業化の促進」が柱になると思う。抜けているのは「他部門との連携」。「グリーンツーリズム」はリニアが入れば当然必要。もう一つは「食農教育」。母親、子どもに食農教育を理解してもらう必要がある。中津川市は自然に恵まれていて、その大部分は林地と農地で、きれいな田んぼなら観光価値があるので、「景観保全」を課題として入れてほしい。

(田口委員) 中津川の農業は約8割が水田で作っているのは65歳以上の人が大半。日本の経営規模では海外とコストが一緒になるわけがない。日本の平均経営規模は約1.5haと言われているが、中津川市は0.7ha。国で20haくらいの農家を全国8割にしようという施策が始まる。しかし、中津川市で20haの農業をするような人はいない。そうすると水田はやめてしまって荒れるだけ。一戸一戸の時代は終わった。集落営農は農家に理解してもらうのが最大の難関。次期の対策はぜひそれを中心にして、それ以外はブランド化で少しでもお金が取れる農業をすることが中心課題だと思う。

(足立委員) 26年度から法律ができて、新たに機構ができ、県に権限を与えて、県が市町村かJAに権限を与えていく形で流れていく。

(田口委員) 細かい農地を借りて、それをきれいに基盤整備して公募で希望者に貸すというのが来年から始まろうとしている。

(足立委員) 国が言っているのは平地のこと。

(田口委員) この辺だと大きくすればするほど畦畔が大きくなって、草刈りできなくなる。

(足立委員) 中山間は中山間を守る農業をやらないといけない。

(岡山部会長) 中津川市としての取り組みを模索する必要があるということが共通したこと。「里山整備も含めた中津川市独自の農業振興モデル地区」を作って、国の方針をアレンジした取り組み。こういうことがあった方がいい。そこでうまくいけば普及をしていけばいい。

(鈴木委員) 今言われたことは観光でも同じ切り口。商売のことばかり書いてあるが、落合で世界の山ちゃんがやっているように、企業の利用を考えていく必要がある。

観光のターゲットを変えていかないといけない。

(鈴木委員) 今、ハウスものを避けているが、余っている木を燃料として使わない理由は何か。

(鷹見委員) 燃料の木材チップは3, 500円/㎥だが道を付けて木材を出すと15, 000円/㎥かかるので採算が合わない。

(岡山部会長) 課題はこのとおりだが、「多面的な環境」を課題に加えた方がいい。課題に対する取り組みの中で、特に重要なことは「販売力強化（ブランド力強化）」「農業の6次化（商業化）」「集落営農組織」が重要という認識です。書き加える部分は「グリーンツーリズム（他部門との連携）の取り組み」「食農教育の必要性」です。具体的に推進するためには、モデル的に取り組んで、この10年間で中津川市の将来性を確定させてみせるという作業が必要で、これは林業との連携も必要だが特区のようなものを作るということを書き加えます。
移住定住推進についてお願いします。

(浅井副部会長) 移住定住については、「市民の啓発活動」の視点がいると思う。中津川市はよそ者を嫌う風土が残っている気がする。これは、共同社会でみんな知った人で仲良く快適に暮らしているので問題ないと言っているうちに消滅してしまうという状態。これに歯止めをかけるには、行政のほうから「啓発活動」が必要。もう一つは行政自体の改革も必要で、今、高等学校を卒業する人が1学年680人くらいで、そのうち540人が中津川を出る。中津川で就職する人は150人前後。出る540人のうち380人くらいが進学で、160人くらいが市外に就職している。それでUターンの数を調べようとしたら、その数を行政は把握していなかった。これでは行政の改革も必要と考えざるを得ない。移住定住する人で何か課題があって、積極的に相談に来た人が何人かという数字は把握していたが、それは開店して客が来るのを待っている姿勢ではないか。もう少し打って出る姿勢が必要だと思う。350人が出て、そのうち何人がよそに定住しているのか。そういう人たちを「故郷を思う絆」のネットワークでつないで、「外から見た中津川」、彼らから協力してもらう形ができないかと思う。リニアの計画でもこのままでは大都市へ人が流れる。ストロー現象に対する対策をしっかりと打たないと、みんなが通勤するベッドタウンになってしまうか、それにもなれない町になってしまう。市民が仲良く住んでみんなで年を取っていくことがいいという発想だと、まちの発展がないまま。中心市街地の活性化でも外から人を呼び込まないと、自分たちが産み育てる人間は毎年500人出て行ってしまう。この5年間で大体3, 000人くらい減っている。幸せに暮らしているうちに、いつの間にか消滅してしまうまちになってしまう。そういう意味で我々のまち自体が一大改革していく時期。キャッチフレーズとしては「故郷との絆戦略」。それで故郷には行政改革を含めて特区を作る。故郷を出て、外で活躍している人たちをブレーンの一部として活躍してもらう。
アンケート調査を基に、中津川に続けて住みたいと思っている人と、出たいと思っている人の要因を調べたら、深く関係しているのは雇用と医療だった。あ

たらしい産業を誘致するなどいろいろ打つ手はあると思う。「行った人も活用する」が提案。

(鷹見委員) この間グループインタビューを受けたが、そのとき実際には外に出やすくなるという意見があった。それから住みづらい環境として、手賀野地域は若い人たちが入り、地域のお祭りも合理化して住みやすくなっているが、坂本は元の慣習で地域のことをやらないといけな。福岡も同じ。そこで出て行ってしまう人もいる。

(安藤由美子委員) 阿木は入学式に12人しかいなかったが、そのあと14人戻ってきた。

(浅井副部長) 居住継続の意思の高いのは苗木で92.3%。市全体の平均78.4%。次に神坂87.5%、山口84.2%。ところが、向かいの川上は67%、蛭川も67%。この町の共通点は、見えるところに街がある。地域色が強い。いいことでもあるしこれからの市の発展を考えると、もう少し心を大様に持つてもらえるといいのではないかと思う

(岡山部会長) 移住定住はここに入るべき問題じゃないと思う。そのために何ができるかだと思う。区分の仕方に問題があると思う。

(鈴木委員) 人口を増やすのがベターだという考え方に立っているとその理論になる。現状で良いし少なくとも維持管理ができればいいという考え方が正しいのかが分からないが、そのターゲットをそろそろ決めないといけな。

(浅井副部長) 重点地域とそうでない地域を分けざるを得ないと思う。選択と集中。全体の人口が減っていくから、選択したところは知恵とお金と時間を投入していかざるを得ないと思う。

(岡山部会長) 移住定住は、基本的には人口減に歯止めをかけようということで、1つは子供をもっと産んでもらう。そのために学校が受け皿になってお母さんが働ける環境にする。産業部会では、学校を卒業してもここに定住してもらうこと。雇用という部分で産業がどうあるべきなのかが担う役割だと思う。それだけでは足りないので、外から住んでもらおうというところが方法だと思う。行政が移住定住に関する考え方を根本的に改めないと、この部署はあってもなくてもだめじゃないかと思う。ここで具体的にやっているのはインフラの整備だが、これは違うと思う。移住定住は違う切り口で切るべきじゃないかと思う。その中で市民の啓発は大事な部分で、地元を可愛がるとか愛着を持つということが大事なことで、そのことの啓発があると思う。

(浅井副部長) 来てもらうためには、温かく迎える気持ちがないと、2世代経ってもよそ者だという認識では来て住んではもらえないと思う。

(鈴木委員) 人口を維持するとか増やすという考え方が前提になっているので、それが本当にいいかどうかを検証するか、中津川流を作ってもいいのではないか。

(浅井副部長) そのために一人一人の給料が高い仕事を中津川市に残す。年をとってもお金が入ってくる。

(鈴木委員) 私が作った会社に今300人くらいいるが、当初はよそから金を持ってきて中津川に落としたいというのが目的だった。自分たちで就職できる場所を作るの

ではなくて、仕事ができる場所を作るという感覚が必要。

(田口委員) 起業という発想。

(鈴木委員) 坂下でパソコンのプログラムで起業した若者がいるが、その人は坂下が大好きで人が集まってくる。

(浅井副部会長) リニアのまちづくりビジョンの中にテレワークがあつたが、それに近い。私が以前いた新潟県長岡市の主婦が東京の会社に勤務しているが、ネットワークを使って仕事をしていて、東京に出勤するのは月に1回か2回だが、東京のオフィスで働いている人と変わらない。リニアが開通すれば東京まで1時間で行けるので、週1回でも行ける。

(鈴木委員) 工場誘致ではなくて起業誘致することを考えた方がいい。

うちの会社がなぜ中津川にあるかということ、日本のど真ん中で物流に便利だから。

(岡山部会長) 「行政の移住定住の基本的な考え方、あり方を抜本的に考えてもらう」ことが切り口だと思う。キーワードとしては「故郷との絆」を戦略として挙げていったらどうかということです。

農業でキーワードを挙げてなかったが、何かあるか。

(田口委員) 「多様な担い手」と「高付加価値農業」を特区でモデルを作る。

(岡山部会長) 次に観光をお願いします。

(鈴木委員) もてなしは商売人がやること。行政がやるべきことをちゃんと見出さないといけない。例えば中津川市には協会がたくさんあって、地域にあった協会で行くのか一緒にいくのか、それは行政指導が必要かどうかもあることが大事。行政のやることと民間のやることを整理整頓しないと無理。道路の外国語看板の特区を作ってもいい。観光については行政が後ろからバックアップできるようなことを考えてほしい。民間はそれぞれやっているが、団体としてはやっていないのでちぐはぐに見えるかもしれない。

(安藤由美子委員) 産業は民間が主導権を握って、行政がバックアップするという形が一番いいやり方だと思う。大きいイベントも一過性ではないものにしてほしい。

(岡山部会長) 三セクについてはどういう考えか。

(鈴木委員) うまくいっているところは早く渡したほうがいい。行政は商売できないからやってはだめ。それはプロに任せればいいが、農林もそうだが土壌だけは作ってほしい。三セクはこの2、3年で整理した方がいい。

(浅井副部会長) なぜ実行できないのか。

(鈴木委員) 地域のこともあるし人のこともあるので、そう簡単に切ることはできないが、もう時期かなと思う。

(浅井副部会長) 北日本で岐阜を知らない人が多い。他地域に学んで、人をもてなすことをリファインすると売れるのではないかと思う。

(田口委員) 馬籠に外国人客が増えているのは、ニューヨークの旅の冊子で、「世界で死ぬまでに一度は行ってみたい」という特集の日本編の中に、中山道のあの辺が載ったため。何にもないところが日本らしくていいとのこと。これにグリーンツー

リズムを引っ付けてやるのも手だと思う。

(岡山部会長) 基本的部分で、行政が果たすべき役割と民間が果たすべき役割の整理が一番大事で、そのために目的、目標について民間と共通認識を作る。その共通の認識の中に行政の果たすべき役割として、高山、下呂の広域観光ということから濃飛横断道が出てくる。こういうところは行政がやるべき問題で、ブランドのもてなしなどは行政と共通認識を作る中で整備されていく問題と集約してよろしいか。

～異議なし～

(鈴木委員) そうすると商業も工業も見えてくる。行政には中津川市で起業するためのプランニングをしてほしい。そのためには恵那北高校を使うという発想を持ってほしい。行政の土地はたくさんあるのでそれを使わない手はない。

(岡山部会長) 商業に入るが、中心市街地の活性化を図っていかなければいけない。その中で行政がすべき役割、民間がすべき役割があるはず。「イベントの定着と個店強化」に六斎市の問題と、商店街の店主へのイベントへの負担が大きいと書いてあるが、商店の負担が大きいようなイベントはやめないといけない。この辺りの行政の役割の認識が違っているのではないかと思う。行政が果たすべき役割についてももう少し明確にしてもらいたい。民間がやらなければならないことについても同じ。今、中心市街地では民間がやりたいことが見えてこない、ここに活性化できない原因があると思うので、ここを引き出す努力をしないと中心市街地の活性化はありえないと思う。周辺部を商業の側面から見たときに、コミュニティを維持させる意味合いからいくと、そこが衰退すると人が流出してしまう。周辺部ではコミュニティを維持するための商業を考えないといけないという位置付けは明確にしなければいけないと思う。これも商売なので、民間がやらなければいけないことは民間にやらせる、これも行政がやるべきことと共通認識を作るということが問題だと思う。また、リニアを活かした商業については、いろいろ情報収集をして、対応できるような行政力をつけるべきだと思う。これも起業という部分が足らないので、これは人材になるかもしれないしその啓発になると思う。

(浅井副部会長) 税金は世の中の流れに沿って使うべきだと思う。だから商業の振興と中心市街地の活性化がイコールなのか。遠い昔に別になっているような気がする。中津川の古い店は郊外に立派な店舗を構えている。そういうことを考えて市全体の発展を考えないといけないと思う。

(岡山部会長) そういう手だてを打ってしまうと、だめなところはどんどんだめになってしまう。それは必ずしもハード整備で補助金をつぎ込むということではなくて、地元愛だとかで人のつながりを高め、単純に商業にお金をつぎ込むのではなくて、商業の立地のあり方が根本的に違うということが言いたかった。買い物ができなくなったら、周辺部は一気に落ちていく。

(浅井副部会長) 周辺部で買い物ができたらいいと思うが。

(岡山部会長) 必要最小限の日常の商業施設がなかったらコミュニティの維持ができなくなっ

てくる。そうになったら周辺部は一気に中心部の重荷になってしまう。

(鈴木委員) 旧町村をしっかりと活性化し、人口維持できるようにしていかないと、農業も林業もできなくなる。そこは行政がどう止めるかだと思う。そのために道路アクセスを作るのか施設を作るのかだと思う。幼稚園、保育園も行政は私学的にしようとしているが、郡部は絶対やってはいけないと思う。民間なら赤字でも行政がやらないといけない。子どもを捨てたら行政は終わってしまう。

(岡山部会長) 辺地に住んでいるものとして、人口比率ですべてに網をかけてしまうと一気に崩れてしまう。自分たちがこうしていきたいという地域づくりを推進していかないといけない。これが人材づくりにつながる。

(鈴木委員) 旧町村部に市の職員をしっかりと置いておかないとだめ。合理化ではなくて、心のふれあいとかそういうことを行政が地域でやらないとだめ。

(浅井副部会長) 地域固有の活性化のために総合事務所は必ず残さないとはいけませんが、ある程度は集約して共通化したほうが全体のためにも効率がいい。そう考えると中心市街地とは何かを考えると、大事なものは都市計画だと思う。現状に沿った用途地域での指定はできているが、こうもっていききたいという色分けではないと思う。

(足立委員) 過疎化地域のライフラインをこれから行政としてどうとらえていくのか。行政と民間が一緒にやらないとできないのか。例えば恵那北のスタンドをＪＡでやっているが赤字でやめたいけどやめられない。Ａコープも同じ。山口の営業所も同じ。これは人間がここで生きていくかどうかという部分だから、商業の部類に入るのかどうか。今考えているのは、落合と神坂のＡコープは、デイリーヤマザキと組んでコンビニ化も含めて残している。次に考えているのは移動購買。それを恵那も含めて週に２回くらい過疎地域を回ればと考えている。これから高齢化が進む中では行政と一緒にできればいいと思う。

(浅井副部会長) コミュニティビジネスという観点も含めて考えられるといい。

(岡山部会長) コンパクトシティという言葉があるが、安易なコンパクトシティという言葉は大反対で、住みにくいところからどんどん中心部に集まる、市の中で人の取り合いを始めるようなことは絶対違うと思う。人を呼び込むためにどうあるべきかだと思う。税金の有効活用についても、一律の網掛けについては問題がある。

(鈴木委員) 地籍をやることで固定資産税が上がるので、これはぜひやりたい。

(岡山部会長) 工業については、行政と民間のやるべきことが違うのではないかと思う。リニアの部分に話しかけていくのは行政としての役割だが、既存製造業の基幹産業の定着を図る必要性もあると思う。リニアを活かした先端企業の誘致は絶対に挙げておかないといけないが、既存の基幹産業はしっかりと保護、育成しないと王子も三菱も出て行ってしまう。そして「地域産業の育成と起業」という部分、「地域産業、資源を活用した育成」の観点から切り口をやっていけば、もう少し違った切り口が見えるのではないかと思う。「労働力の確保」はそのあとに続いてくる問題だろうと思う。

(鈴木委員) 中津川の企業はほとんど今海外に出て行っている。自分たちの力がついてきて

いて独自製品で売り込もうという動きが出てきているから、大手は合理化して人が減ってくると思う。大手が抜けてしまうかもしれないという覚悟を行政は持っていてほしい。

2. 将来像のまとめ方について

- (岡山部会長) 次回は21日を予定しているので、意見があれば9日までに事務局へ電話かメールで連絡して、課題を書き加えていきたい。第4回ではそれをまとめたものを確認していきたい。将来像のまとめは、テーマ、キーワードが出たので、文章化していかないといけないが、作り方をどうするか。
- (鈴木委員) 全部自分でやるのはつらい。行政でまとめてもらわないと時間的に無理だと思う。
- (浅井副部会長) 先般部会長がフレームワークを作ったので、そのフレームワークで漏れがないかチェックできるのではないかな。事務局でたたき台を作って、それを我々で漏れがないか確認したほうがスムーズにいくと思う。
- (岡山部会長) 今日のキーワード、話の内容をつなぎ合わせる仕事を行政でやって、それを次回提案してほしい。
- (木村企画財務課長) キーワードをもう少し出していただけると文章化しやすいので、ぜひとも出していただけるとありがたいです。
- (浅井副部会長) どうしても理解しづらいところは発言された委員に聞いてもらうといい。
- (岡山部会長) 将来都市像のまとめ方については、今日の話を掌握して、事務局で文章化して原案を作ってもらうということでよろしいか。

～異議なし～

3. 今後の部会運営について

- (岡山部会長) 第4回は21日の15時を予定しているが、第4回は今日のまとめを目通しして、再度修正があるかどうかを確認して、次は将来像のまとめ方の内容について入っていきたいと思います。
- その他はよろしいですか。

～異議なし～

- (岡山部会長) 閉会宣言

午後5時20分 閉 会

平成25年11月18日
産学部会長 岡山金平